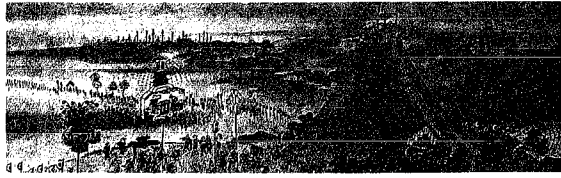


時代を拓く

天保14 (1843) 年。新たに幕府領となった新潟町の初代新潟奉行として就任した川村修就。足かけ10年にわたり新潟奉行を務めた修就は、異国船に対する海防の強化をはじめ、砂防林の植栽、物産の安定、町火消体制の整備など、数々の業績を残しました。本紙では、新潟のまちづくりの基礎を築いた修就の業績や人柄などを紹介します。

八新編

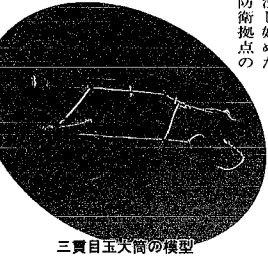


蟹の手振り 修就が新潟の特徴的な風俗六景を描かせ、自ら銅書きを書いた絵巻物。これはその内の一つ「漆の行列」



海防の強化

修就は、砲術に関しては、萩野砲術の免許皆伝。また、江戸湾防備態勢を核分しており、海洋防備に関する砲術関係の達人としてその腕を高く評価されていた。修就は、武備の充実のために、自ら設計図を引き、



三寶目玉大岡の模型

まちづくりの基礎を構築

は海岸浸食で海中に没している。に砲台などを整備するとともに、砲術訓練も番所の近くで行うことで、洲崎番所は名実ともに新潟における海防の拠点となりま

百目玉筒(百目は三百七十五)、三百目玉筒、五百目玉筒を製造。さらに三貫目玉筒も製造されています。

町火消体制の整備

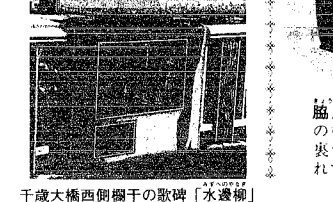
天保十四年、着任早々の修就は、早速町火消体制の整備に着手。江戸町火消の制度に倣って、「新潟火消人足番組」を編成しました。これは、全町を五組(一番組から五番組)に分けて、結果、新潟町の火災発生件数は激減しました。

修就を偲ぶ

新潟の地に数々の業績を残した修就。郷土資料館には修就の遺品など、品々が展示されています。また、西海岸公園内には銅像が、千歳大橋の西側欄干には歌碑が設置されています。



郷土資料館 同館には、修就の遺品をはじめ、蟹の手振り、将軍からの拝領衣、掛箱、新潟在勤日記、手製の脇息などが展示されています。また、同館では、調査年報第22集「初代新潟奉行・川村修就」を800円で頒布しています。問い合わせ 同館(☎228-3259)へ



千歳大橋西側欄干の歌碑「水邊柳」

修就を語る

今でも通用する施策 砂防林の植栽、民生の安定、町火消体制の整備など、修就が新潟に残した業績は今でも通用すると思われるなど、非常に優しい人

父・清雄は、修就に随分分わいがられたようで、また、清雄が絵画を学ぶすね。修就は、歌を詠み、書をたしなむとともに、柔術、砲術、算術にもた

う。修就は、砲術訓練の際に忘れていた物事に、門にしたりと、物事に妥協せず厳しい面がある一方、新潟に赴任する際に、飼猫を一緒に連れてくるなど、非常に優しい人

松苗種付之園

近にかけて、松苗三千三百七十五本の植え付けを完了しました。この夜修就は、植え付けに尽力した配下に、夜食を振る舞いました。この日記には「うつけし植えし二葉の松に秋の月、梢の影は誰か仰がんと」と一句記し、松の成長を願いました。その後、「松苗植付之園」によると、嘉永二(一八四九)年までの六年間に二万六千本余りの植栽を行っています。

歴史小説家 小松重男さん